

中小の働き方が変わる

石井代表の実家（熊本県・天草）の近所からの夕日



ワーケーション検討 導入のハードルなお高く

サンシン電気（東京都練馬区）を中核とするサンシングループ（同）の石井宏宗代表は2020年と21年の春に、ワーケーションを自ら試行した。実家がある熊本県・天草に帰省した時期と新型コロナウイルス感染拡大が重なったため、東京に戻らずに社内制度に活用できるかどうかを検討した。

グループではコロナ禍前から積極的にオンラインツールを導入しており、遠隔でも社員との連携はスムーズ。「自然との共生という円環運動の中での仕

サンシングループ

事。業務への支障は全くなかった」（石井代表）と利点を実感した。

その反面、子どものいる家庭では学校のリモート講義が前提で、企業がワーケーションを認めても運用できない。とはいえ、制約を受けないシニアなどの世帯だけで運用すると社内格差が生じてしまう。今回の試行を通じて「ワーケーション導入は現状では難しい」が、オンライン授業を含む社会全体のICT化が進めば可能になると考えた。